

15. 3. 24.
15. 3. 24.
15. 3. 24.

神奈川縣醫師會報

平成十五年三月十日 発行 (毎月一回十日発行)

3月号 No.629 (2003.3.10)

神奈川県医師会 発行



記憶の中の風景 (105)

「火垂(ほたる)の墓」の思い出

小田原医師会 間 中 信 也

もっとも古い記憶というのは、何歳まで遡れるものでしょうか。昭和20年8月15日、午前0時から3時の間、小田原市はB29の爆撃により空襲を受けました。太平洋戦争「最後の空襲」です。焼夷弾により当時の高梨町、青物町、宮小路が焼きました。焼失家屋402戸、罹災者1844人、負傷者65人、死者48人を出しました。ポツダム宣言受諾は8月10日、無条件降伏決定は8月14日ですから、小田原空襲はその後に行われたこととなります。この最後の空襲のことははっきりと覚えています。夜中にたたき起こされ、ひたすら西へ逃げました。大銀杏のある居神神社の境内に逃げ込んだこと、そこで腹痛を起こしたこと、同日朝、自宅の二階の雨戸がカラカラと開けられたこと、などを思い出します。私は昭和15年12月9日生まれですから、4歳と8ヶ月の記憶です。

戦争中の記憶といえば、自宅の庭で大人が東の空を指差し、「あ、空中戦だ」と叫んだのを覚えています。空中戦の具体的なイメージは思い起こせません。しかしこの事件はいつまでも心に残っていました。先日、小田原の橋(二宮と小田原の境にある)から曾我山を越えて国府津に抜ける農道をドライブしていたときのことです。その頂上付近に沼代というところがありますが、その道端で「陸軍中佐上原重雄戦死の地」という案内板を見つけました。そこにはつぎのような内容が書いてありました。

「昭和20年2月16日、相模湾沖の航空母艦から発進したグラマン戦闘機延600機が関東地方を襲った。午前10時頃、攻撃を終えて南下してきた大編隊の群に単機捨身で突入した日本軍機があった。衆寡敵せず、小田原市小竹上空で被弾し、炎に包まれ、沼代の丘陵地に墜落し、戦死を遂げた。上原中佐は陸士52期卒業の歴戦のつわものであったが、戦死当時は愛甲郡愛川町にあった第22航空

戦隊長の任にあった。この部隊は平壤(びょんやん)に移駐が命じられており、敵機への迎撃は禁止されていた。ところが本土が蹂躙されるのを義憤して、自ら単機発進し、戦死を遂げたものである。云々」。道から300メートルほど離れた鉄塔の近くに搭乗機「疾風(はやて)」のプロペラ4枚の中の1枚が記念碑として建てられていました。小雨にけぶる墓前には花が手向けられていました。炎に包まれた飛行機が墜落したところに建てられた墓、つまり「火垂の墓」です。

わたくしが目撃した空中戦とこの上原中佐の迎撃とが同じものかどうかは定かではありませんが、目撃時の状況から同一のものであったと信じています。とするとこれは4歳4ヶ月の記憶ということになります。4歳といえば、野坂昭如原作の「火垂(ほたる)の墓」(高畑勲 脚本/監督 1988年作品)が思い出されます。4歳の女の子と14歳の兄は神戸の街で戦争に巻き込まれ、生きそして死んでいくという重苦しいアニメです。女優の斉藤由貴さんいわく「二度と見たくない映画、……つまらないのではなく……全てが心の奥につき刺さってくるので、見るのが辛くなってしまいう作品」です。まだ見ていない人は是非見ることを勧めます。ただし一人で見てください。大の大人がアニメ映画で涙を流すのはみっともないですから。

二宮駅前には「ガラスのうさぎ」の銅像が建っています。手記「ガラスのうさぎ」の著者・高木敏子さんは昭和20年8月5日、二宮駅で艦載機P-51の機銃掃射を受け父を亡くしました。お父さんの亡骸を火葬用の薪と一緒に荷車で当時酒匂にあった小田原の火葬場に運ぶくだけは哀れです。碑文の最後には「ここに平和と友情よ永遠に」と結ばれています。豊かなのに心貧しき現代に伝え残したいメッセージです。

孫たちの干支を泛べつ初天神

亀戸の地名懐かし初天神

初天神踏まれず残る霜柱

風揚や磯馴松葉のきらめきて

風揚や父子の背の反る河川敷

遠く高く小さくなりし揚り風

湘南の浜に風揚児の叫び

大風の上りきれずに野を走り

風あがる初島大島足げにし

風揚や唸りは風の糸伝ひ

羊飼いのミレー絵掲げ年迎ふ

手術メス未練に置きしと賀状かな

讃岐雑煮丸き餡餅白き味噌

月凍つる陶の狸が酒買ひに

初御空不動の姿清らかに

喜寿迎え初めて鶯を替えにけり

糸ひけば勇む手応へいかのほり

かぶさってかぶさって滝凍てにけり
故里や女正月阿蘇の湯に

初場所や薄着の似あう三段目

如月や下弦の月の早く落ち

寝る人に音なく降りて雪優し

黒猫の芝生横切りて身重なる

早梅や地に枝影のさだかなる

紙鳶昨日も富士の右に見え

ループタイ鏡を覗き寒明ける

数え日や波打って出るファクシミリ



第百九回俳句大募集

第百九回俳句募集を左記季題及び当季雑詠により行いますので、多数ご応募下さい。

応募頂いた作品は、会報五月号の紙上にすべて無記名で掲載し、県医俳句会員より二名の選者に優秀句を各五句づつ選句していただき選評を加えて会報六月号に発表致します。

(応募作品は必ずペン又はボールペンで楷書でていねいに書くこと)

〈第百九回募集句〉

次の季題にちなんだもの二句、及び当季雑詠一句、計三句をハガキでご応募下さい。

季題——晚春、恋猫、下萌、蛤、雲雀、その他当季雑詠

投句締切——四月十日(木)

応募先 〒二三一〇〇三七

横浜市中区富士見町三一

神奈川県医師会会報編集委員会

(〇四五)二四一七〇〇〇

〈句会の運営方法〉

一、季題を発表。

二、俳句を会員の皆様より募集。

三、応募された句すべて無記名で紙上に掲載。

四、県医俳句会員より毎回二名の選者に優秀句を各五句づつ選句していただき選評を加えて発表します。

五、年間賞をもうけ、その年の入選句より優秀句を発表します。